

## 何を以て導かんとするや

貴重なる幼児は諸君に托せられて居る。其の幼児を身にもかへ難く愛重して居る親達は、諸君に對する全幅の信頼を以て其の子を携へ來り託したのである。國家は其の幼児の教育者として、諸君を承認し、又諸君に期待して居るのである。而して、幼児は其の全精神を諸君の前に傾倒して、其の教導に従はふとして居る。諸君が充分此重任を自覺し、日々其の全力を致しつゝあるは何人も疑はない。それはよく、諸君が保育に熱心なるによつて證明せられて居る。諸君口を開けば保育法の困難なるを云ふ。困難を感じるは、熱心なるの結果である。諸君は機會を得る毎に保育法の研究を怠らない。研究につとむるは熱心なるの結果である。又、保育法研究の爲に、進んで種々なる基礎知識の研鑽にまで及ぶ。益々其の熱心なる所以である。しかし、諸君は斯くの如く研究せられ、熟

達せられたる方法のみを以ては、幼児を導くことは出来ない。何故に導かざるべからざるかは明かである。如何なる方法によつて導くべきかも明かである。然らば果して何を以て導かんとするや。之れは屢々殘されて居る問題である。

○

導くべき目標——それが自己の微力にて到底導き到り達し得ないことが多いとするも、兎に角、目標だけは立つて居なければならぬ。而して教育の目標は、教育の各時期に従つて、程度にも亦性質にも各相違あるものではあるけれども、其の一つ／＼の一里塚を辿りつくして到達せんとする竟極の目標は、すなはち人生の目的それ自身でなければならぬ。而して、之れあるによつて各目標の方向も定められるのである。以て見れば、我等が幼児を導かんとする方向は、——幼児教育の

範圍内では何れの點まで進み得るにせよ。——恐らく極めて少し許りしか進み得ないにせよ。——いふまでもなく、人生の目的それ自身によつて指定せられなければならない。

○  
若し我々が人生の目的を、既に完全に捕へ得て居るならば、それによつて確に幼兒を導くことが出来る。恐らくや之れが理想の教育者といふものであらう。しかし、之れは凡ての人に望むべく餘り六かしいことである。又若し、此の條件に合しなれば幼兒教育者たり得ないとならば、果して幾人か其の任に留まるに値しやう。そこで我々は、もう一段低い處で寛恕せられなければならない。それは何であるか。我々自身が既に身に捕へ體現し得ては居ないが、之れを明かに理解し、眞實切實にこれを自己の目標として居るものを有して居ることである。換言すれば、自分も今現に其の目標の方へ自らを導きつゝある身ではあるが、兎に角く、其の目標だけは分つて居ることである。蓋し之れは、教育者として寛恕され得る最極限であら

う。即ち、之れだけのことの無い者は、教育者とはいはれないのであらう。自分にも分らない方向に、他を導いてゆくことは到底出来ないからである。

○  
我等は我が有せる此の方向を以て——せめては此の方向だけを以てなり、幼兒を導きてゆくの外はない。而して我等、果して如何によく此の方向を意識し、眞によく方向として居るか。換言すれば、如何に眞實に我が方向として確に有して居るか。保育法の研究は益々進まなければならない。保育の經驗は益々熟練しなければならない。しかも同時に、——寧ろ先きに——以て幼兒を導くべきものをわれに有しなければならない。

斯くの如きことは、教育全體の問題で、特に幼兒教育に限つた問題では勿論ない。しかも、幼兒を相手とする教育なるが故に、軽く考へられたり、閑却せられたりしてよい理由は、何處にも無いのである。而して我國現今の保育界に此の方面の意識の一層強めらるゝ必要あることを思はざるを得ない。